

英語科学習指導案

日 時：平成17年11月9日(水)

学 級：一戸町立鳥海中学校

2年A組(男子8名、女子10名 計18名)

場 所：2年A組教室

授業者：遠山 秀樹・Michaela Kelly(ALT)

1 単元名 Christmas Is Coming

(NEW HORIZON ENGLISH COURSE BOOK UNIT6)

2 単元設定の理由

(1) 教材性や指導価値について

本単元では、クリスマスソングで有名な「きよしこの夜」が生まれた背景が題材の内容となっている。クリスマスの季節になると耳にする有名な曲が、オルガンが壊れたために急遽ギターで大変苦労しながら作曲されたという内容は、生徒にとっては興味深く読み進められる内容である。また、日本のクリスマスの雰囲気とは異なり、教会でクリスマスを祝うキリスト教文化圏の本来の風習を知ることは、生徒にとって異なる文化を理解する上で大切であると考えられる。

文法事項は、there is(are)構文と動名詞(目的格、主格)を扱う。

there is(are)構文については、「特定する必要がないものが、ある場所にある。」というとらえ方を既習の My book is on the desk.などの文と対比させながら理解を図るとともに、場所を表す前置詞句を用いながら場面や状況を正確に伝えることができる力を身に付けさせたい。

動名詞については、動詞の語尾に "ing" をつけることで名詞としての意味を持つことを、既習の不定詞(名詞的用法)を想起させながら理解させたい。その際、同じ語形となる現在分詞との対比により用法の違いについて留意させる。生徒は動名詞を学習することにより、「～することは(を)」のような主語(目的語)の表現ができるようになる。表現力の幅が一層広がり、生徒が本来英語で伝えなかった内容により近づいた表現ができるようになることを考え、本単元を設定した。

(2) 生徒の実態

本校の生徒の実態として表現力の乏しさが挙げられ、研究テーマを「意欲的に自分の考えを伝えようとする生徒を育成する指導方法はどうか」として校内研究を進めているところである。研究テーマに迫るために、教科指導のみならず、総合的な学習、特別活動、生徒会行事等においても生徒に考えさせ、発表する場を意図的に設けながら表現力の向上を目指している。リーダーとなっている生徒たちは、徐々にではあるが、発表の姿勢や内容もよくなってきている。しかし一方、他の生徒は、他人の良いところを自分にも生かそうとする姿勢がまだ乏しい状況にある。

英語の授業では、男女が協力し合い温かい雰囲気の中で授業に臨んでいる。各学年の中でも2年生は男女のバランスもよく、ペアワーク等もスムーズに行うことができる。しかし、学力差が大きい学級でもある。昨年度に行ったCRT検査の結果は以下の通りである。

(1) 観点別得点率 ()内の数値は全国

- ・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 65.6(64.3)
- ・ 表現の能力 73.4(66.9)
- ・ 理解の能力 67.1(66.2)
- ・ 言語や文化についての知識・理解 70.5(65.9)

(2) 領域別得点率 ()内の数値は全国

- ・ 聞くこと 77.2(75.4)
- ・ 話すこと 69.9(63.8)
- ・ 読むこと 66.2(65.4)
- ・ 書くこと 65.1(62.0)

(3) 小領域別で全国に比べ劣っているもの(全国比)

- ・ 具体的な内容や大切な部分を聞く 97
- ・ 文章の大切な部分を理解する 90

日常の授業に対して主体的になってほしいという願いから、発言・発表を促してきた。昨年度から今年度の1学期にかけて「発言・発表点検」「音読マラソン」を行った。成果として、容易な発問に対しては多くの挙手が得られるようになった。学習した英文を用いて自分のオリジナルの英文を作って発表(表現)する場面においても、少しずつではあるが発言が増え、表現の幅も広がってきている。しかし、「書くこと」については、正確性を欠き定着は不十分である。そのため、小テストを行いながら定着を図っているところである。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

- ・ 「きよしこの夜」が生まれた逸話を積極的に読み進めようとする。

[表現の能力]

- ・ there is(are)構文や動名詞を用いて身の回りの事実や自分の考えなどを正確に表現できる。

[理解の能力]

- ・ there is(are)構文や動名詞を用いて伝えられた事実、物語などの内容を正しく理解できる。

[言語や文化についての知識・理解]

- ・ there is(are)構文や動名詞を含む文の形・意味・用法を正しく理解する。
- ・ クリスマスでの習慣や歌が誕生した経緯について理解を深める。

(2) 評価規準

| 領域 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
|------|--|---|--|---|
| 聞くこと | クリスマスでの習慣や歌が誕生した経緯について関心を持って聞き取るようとしている。 | | there is(are)構文と動名詞を含む文を聞いて、その内容を理解することができる。 | There is (are) ~ .の文が「~がある、~がいる」という意味になり、動名詞のingが進行形と異なることを聞き分ける知識を身につけている。 |
| 話すこと | there is(are)構文と動名詞を含む文を用いて、自分の身の回り(町、学校、家、部屋)について積極的に話そうとしている。 | there is(are)構文と動名詞を含む文を用いて、自分の身の回り(町、学校、家、部屋)についての英文を話すことができる。 | | there is(are)構文と動名詞を含む文の構造について正しい知識を身につけている。 |
| 読むこと | 本文を気持ちをこめて朗読しようとしている。 | 本文を気持ちをこめて朗読することができる。 | there is(are)構文と動名詞を含む文を読んで、その内容を理解することができる。 | 本文を読んで、クリスマスでの習慣や歌が誕生した経緯について正しい知識を身につけている。 |
| 書くこと | there is(are)構文と動名詞を含む文を用いて、自分の身の回り(町、学校、家、部屋)について、間違いを恐れずに書こうとしている。 | there is(are)構文と動名詞を含む文を用いて、自分の身の回り(町、学校、家、部屋)についての英文を書くことができる。 | | there is(are)構文と動名詞を含む文の構造について正しい知識を身につけている。 |

4 指導と評価の計画 (Unit 6・・・7時間計画)

| 時 | ねらい・主な学習方法 | 観点別評価の重点領域 | | | | | | | | | | | | 学習活動における具体的な評価規準 | | | |
|-----------|---|------------|---|---|---|-----|---|---|-----|---|--------|---|---|------------------|---|--|--|
| | | 関・意・態 | | | | 表 現 | | | 理 解 | | 言 語・文化 | | | | | | |
| | | L | S | R | W | S | R | W | L | R | L | S | R | | W | | |
| 1 (本時) | 【 Starting Out】 ・ there is(are) 構文を用いた文の形・意味・用法を理解し表現できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | there is(are) 構文を用いて、自分の理想の部屋についての英文を話すことができる。 A：複数のつながりのある文で話すことができる。 努力：語順を再度指導する。 |
| 2 | 【Dialog】 ・ there is(are) 構文を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | there is(are) 構文を用いて、たずねられたことについての応答をすることができる。 A：さらに詳しくたずねたり、説明したりしながら会話を発展させることができる。 努力：疑問文と応答文のしくみを再度指導する。 |
| 3 | 【 Reading for Communication. 気持ちをこめて朗読しよう】 ・ 動名詞(目的格)を用いた文の形・意味・用法を理解し表現できる。 ・ 物語の内容が伝わるように、気持ちをこめて音読できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | 気持ちをこめて本文を朗読することができる。 A：登場人物の感情に合わせて強弱や抑揚に留意しながら朗読できる。 努力：語句の発音や、フレーズの区切り方を指導する。 |
| 4 | 【 Reading for Communication. 気持ちをこめて朗読しよう】 ・ 動名詞(主格)を用いた文の形・意味・用法を理解し表現できる。 ・ 物語の内容が伝わるように、気持ちをこめて音読できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | 気持ちをこめて本文を朗読することができる。 A：登場人物の感情に合わせて強弱や抑揚に留意しながら朗読できる。 努力：語句の発音や、フレーズの区切り方を指導する。 |
| 5 | 【Your Turn】 ・ メモやポスターなどを見て必要な情報を収集できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | 必要な情報を読み取り、空所に適語を補充することができる。 A：必要な情報を素早く読み取り、空所に適語を補充することができる。 努力：読み取りの観点を指示する。 |
| | 【Listening Plus 6】 ・ 英語の歌に親しみ、歌詞を聞き取ることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | 歌詞を聞き取ろうとしながら、英語の歌を聞いている。 A：内容を考えながら、聞き取ろうとしている。 努力：聞き取る単語を焦点化する。 |
| 6 | 【Writing Plus 3】 ・ グリーティングカードを作ることに親しむ。 | | | | | | | | | | | | | | | | グリーティングカードをおくる習慣を知り、書き方について知識を身につけている。 A：場面や状況に応じた書き方について正しい知識を身につけている。 努力：雛型を示し、理解を促す。 |
| 7 | 【Multi Plus 4】 ・ 自分の住んでいる街の紹介文を英語で書くことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | 教科書の紹介文を参考にし、自分の街の紹介文を書くことができる。 A：自分の街の特色を詳しく書くことができる。 努力：I live in ~. There is (are) ~. の2文で書かせる。 |

は授業を通して、実際に評価を実施する観点であり、 は可能なら実施する観点である。

5 本時の指導について

(1) 主題のテーマ Unit 6 Starting Out

「～がある/いる」という言い方が分かって使えるようになろう

(2) 本時の目標

どこに何があるか積極的に聞き取ろうとする。

there is(are)構文を正確に用い、身のまわりの状況を適切に話したり書いたりすることができる。

there is(are)構文を用いた文の内容を正しく聞きとったり、読み取ることができる。

there is(are)構文を用いた文の形・意味・用法を理解する。

は授業を通して、実際に評価を実施する観点であり、は可能なら実施する観点である。

(3) 本時の指導の構想

本時の目標を達成するために以下の点に留意して指導する。

Warm Up の英問英答から既習の場所を表す前置詞を想起させ、題材を導入する。想起させる前置詞は、" under ", " on ", " in ", " by " の4つとする。

" There is(are) ~ . " は意味上の主語が文頭にはない特殊構文であるが、多くの写真(絵)を提示し、繰り返し口頭練習することで英文の形を理解させ、基本表現の定着を図りたい。また、be 動詞 " is ", " are " の使い分けについての説明はできるだけ避けたい。

発展的な活動として、2つの活動を行う。最初はグループワークを行う。これは、比較的学力の低い生徒も場所を示す前置詞が確認できていればしっかり取り組めるのではないかと思われる。「何がどこにあるのか?」という聞き取りのポイントを与えて取り組ませたい。2つ目の活動は、ただ単に " There is(are) ~ . " を用いた英文を書くだけでなく、1文加えることでさらに具体的に相手に伝えるというメッセージ性を持った英文を書かせ発表させたい。加える文は教師から与え、選んで発表させる。発表した生徒に対しては、必ず教師またはALTからコメントを加える。発表する英文は多少正確性を欠くことが予想されるが、「伝える」ことを重視した活動をさせたい。自己表現レベルでの「書くこと」の正確性については、後日扱う「Multi Plus 4」で求めることとする。

評価する場面が多くあるが、中でも「話す」ことに焦点をあてて指導したい。

(4) 本時の展開

| 段階 | 学 習 内 容 | 学 習 活 動 | 時 間 | 評価・指導上の留意点 (評価の観点 =) |
|---|---|---|---------|--|
| 導 入 | 1 あいさつ 2 Warm Up 3 場所を表す言い方の 復習 4 新出文型の導入 | ・既習の表現を使った英問英答 T: Where is ~? S: It's on ~. T: Yes. There is ~ on . | 5 分 | ・明るくはっきりと行う。 学習の雰囲気づくりと、既習事項の定着を目指して行う。 [話す - 関・意・態] |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【学習課題】 「～がある/いる」という言い方が分かって、使えるようになろう。 </div> | | | | |
| 展 開 | 5 基本文型の確認 6 新出文型の定着練習 (1) 文型ドリル (2) 教科書の内容把握と音読練習 7 言語活動 (1) グループワーク (2) 個人 | ・写真を見て、英文を聞かせ、" is " と " are " の使い分けについて考える。 ・写真(絵)を見て、There is (are) ~ . でどこになにがあるか話す。 ・本文を聞いて、内容を推測する。 ・意味を考えながら音読練習する。 「Michaela の部屋の絵を描こう！」 班毎に順番を決めて、一人ずつ Michaela から「何がどこにあるか」についての情報をもらい、班毎に部屋の絵を完成させる。最後に各班の絵を見比べる。 「理想の部屋をつくらう」 “ There is (are) ~ . ” を使って自分の理想の部屋について3～5文を学習シートに記入する。その後、1文つけ加えて発表する。 | 43 分 | ・繰り返し、写真(絵)を見ながら英語を聞かせる。 P C を見て、" There is (are) ~ . " の文を話すことができたか。 [話す - 表現] しっかり声を出して音読しているか。 [読む - 関・意・態] ・短縮形 " There ' s " について説明を加える。 積極的に活動に取り組んでいるか。 [聞く - 関・意・態] ・聞き取りのポイントを与える。 ・机間巡視を行い、下位の生徒への支援を行う。 英文3文以上書くことができたか。 [書く - 表現] 英文を発表することができたか。 [話す - 表現] |
| 終 結 | 8 課題の確認と次時の予告。 | ・学習シートの完成とワークブックの宿題を確認する。 | 2 分 | |

(4) 本時の評価規準

| 領域 | A | B | 努力を要する状況の生徒への手立て |
|------|---|--|---|
| 聞くこと | ” There is(are) ~ ” の英文を聞いて、「何がどこにあるのか」を理解することができる。 | | 既習の前置詞を再確認させる。 英文のスピードを変えて、大切な単語の聞き取りに注意させる。 |
| 話すこと | ” There is(are) ~ ” を用いて自作の英文を3文以上話すことができる。 | P C を見て、” There is(are) ~ ” を用いた英文を話すことができる。 | |
| 読むこと | 教科書の本文を暗唱することができる。 | 教科書の本文を音読することができる。 | 机間巡視やペアワークでの支援を行う。 |
| 書くこと | ” There is(are) ~ ” を用いて自作の英文を3文以上書くことができる。 | 基本文を正しく書くことができる。 | |